

1 学校教育目標と研修主題

<学校教育目標>

「夢中」と「笑顔」で共生社会を生きるひと

<研修主題>

「夢中」になって取り組み、できた喜びに「笑顔」輝く姿を目指して

<授業づくりの重点>

児童生徒が「やってみたい」「こうなりたい」という思いを持ち、
人やものに関わりながら学ぶ授業づくり

2 研修主題に込められた思い

本校は、昭和49年の開校時から「自分から精いっぱいがんばる人を育てるために」を研究主題に掲げ、知的障害教育校としての実践に取り組んできた。当時は、教育課程や教育方法を模索する中で、何が最も急務な研究目標であるかが議論され、その結果、すべてのことに「精いっぱいがんばる」子どもを育てようという結論に達した。『精いっぱいがんばる』ことが、自己の潜在能力を顕在化し、精神的にねばりのある強い人を育てることになる。ひいては学校という集合の有機体を作りあげる」（研究紀要1より抜粋）という先人たちの精神は、本校の合言葉である「みんなと仲よく、明るく元気に、せいいっぱいがんばるひと」に受け継がれている。

学校教育目標『『夢中』と『笑顔』で共生社会を生きるひと』の実現に向けて、令和3年度より、研修主題を『『夢中』になって取り組み、できた喜びに『笑顔』輝く授業づくり』と設定した。目標や目的をもち、最後まで思い切り活動に取り組む姿を「夢中」、学習の中で主体的に様々な力を身に付けたり、発揮したりすることで「できた」を感じる姿を「笑顔」と捉え、せいいっぱいの「夢中」と「笑顔」の姿を引き出す授業づくりを通して、児童生徒一人一人の自立と社会参加の実現に向けた実践を行っていく。

3 これまでの授業づくりについて（令和3年度～令和7年度）

上記の研修主題を掲げ、令和3年度から3年計画で「展開」「導入」「まとめ・振り返り」という授業における要素に重点を置きながら授業づくりを進めてきた。

一方で単元全体から捉えた児童生徒の学びの姿を見取ることや子どもたちが培ってきた力を次の単元につなげたり、他の場面へ広げたりすることに課題があった。加えて、コロナ禍により制限された教育活動によって、子供同士の関わり、校内や地域との関わりが十分に持てなかったり、「やりたい」という気持ちを大切にしたい児童生徒発信の思い切った活動が難しかったりした面もあった。よって、学習指導要領や教育振興基本計画の理念が示すように、ウェルビーイングの向上や目的、喜びを見出しながら主体的に学ぶ姿を目指していくために、令和6年度、7年度は重点テーマを「児童生徒の思いを生か

し、一人一人の学びがつながり、ひろがる授業づくり」に設定した。

4 令和8年度の重点テーマについて

研修課として過去2年間の成果と課題を整理し、今年度以降の重点テーマを検討した。全校職員を対象に行ったアンケートでは、校内研修の成果として「児童生徒の思いを生かし、主体的に取り組みながら力を身に付けていく授業づくりが全学部で定着してきたこと」が最も多く挙げられた。このことは、この2年間研修で行ってきた「思いを生かし、つながり、ひろがる」授業づくりが浸透してきたことを示している。また、具体的な改善ポイントとして、「子どもたちが『やってみたい』と思える学習テーマ、目的の追究」、「子どもたちにとって学ぶ必然性があり、ストーリー性のある学習」、「各教科等を合わせた指導形態における目標と評価規準の設定について」、「人・もの・こと（地域）と協働すること」、「他者との関わりがもたらす可能性を探ること」などの意見が顕著であった。これらのことを考える材料とし、今後の研修を深めていくために必要なこととして、二つのキーワードに着目した。

一つ目は児童生徒の思いを生かし、彼らの主体性を重視した授業づくりである。これまでの研修で、児童生徒たちの夢中と笑顔の姿を引き出すためには、子どもの思いを生かした授業づくりが重要であることを再認識することができた。研修の成果を引き継ぎ、児童生徒の主体性を重んじた授業づくりの質を保ちつつ、上記に挙げられた改善ポイントを取り組み、深化させていきたい。

二つ目は、協働や共生社会を生きる力の視点を取り入れた授業づくりである。自分一人ではできないことも、周りとの関わりの中で発揮される力があり、これからの共生社会を生き抜く上で、人やものとの関わりながら育成すべき資質能力を身に付けていく過程に注視していくことが大切だと考えた。

根拠として、次期学習指導要領の方向性を示す論点整理や令和の日本型学校教育の方針を参考にした。そこでは、多様な子どもたちの深い学びを実現するためには、主体的に学ぶことと他者と協働していくことを一体的に充実させていくことが重要であるとしている。また、静岡県総合教育センターは、子どもを主語とした授業づくりと実現するために（個別最適な方法による）主体的な学びと協働的な学びを往還しながら、一体的に進めていく方向性を各学校に発信している。

以上より、これまでの研修で培ってきた成果（主体性を生かした授業づくり）を継承しつつ、本校としての協働的な学び方にも焦点を当てていきたいと考え、R8年度は二つのキーワード「児童生徒の思いを生かすこと」、「人やものとの関わりながら学ぶこと」を重点とした校内研修を推進していきたい。

5 継承されてきた授業づくりの方法

（1）PDR サイクルによる授業づくり

学年会、作業班会、G研（学部グループ研修）を年間計画に位置付けた、PDR（Prep 準備・計画、Do 実践、Review 振り返り・改善）サイクルによる授業づくりを今年度も継続していく。特に、年2回実施される公開中心授業の事前研修、事後研修では、子どもたちを主語にして語り合うことを研修活動の中心に置いている。実態把握はもちろん、子

どもたちの思いを生かした、必然性やストーリー性のある単元づくりをはじめ、彼らの夢中と笑顔の姿を見取り、自分事として省察するなど、教員としての専門性向上のための学びの場が確保されている。それは本校の授業づくりの水準を保つ上で欠かせない研修の一部となっている。過去の成果を、三つの段階（P・D・R）で意識すべき指標として組み込み（図1、黄色部分）、授業づくりを進めていく。

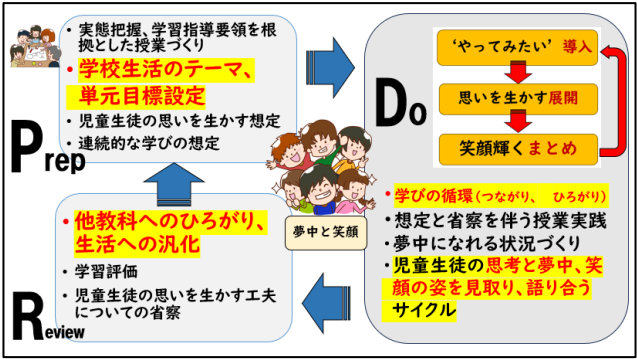


図1 PDR サイクル 学びの蓄積

（2）“授業について語り合い、みんなで学び合う” 校内研修スタイル

静岡北特別支援学校の校内研修は、研修主題、重点テーマに迫るためにG研（学部グループ研修）を核とし、子どもたちを主語とした語り合いをしながら学びを深めている。児童生徒が「やってみたい」「こうなりたい」という思いを持ち、人やものに関わりながら学ぶ授業づくりを試行錯誤し、子どもたちの夢中と笑顔の姿に迫れているかを語り合うことを大切にしている。「〇〇という子どもの思いを生かすために**という手立てを工夫してみた。そのことが□□という目指す姿につながったと思う。」と解釈した実践事例を集め、議論し省察していくことが、授業づくりの充実と教員の専門性向上につながり、役に立つ研修になると考えている。

6 今年度の取組

(1) 全体研修

年間4回（うち1回は総合教育センター定期訪問）行い、全職員で学校全体の研修の取組や方向性について共通理解する。

(2) 授業づくり

ア グループ研修（G研）

研修主題と授業づくりの重点を踏まえて、学部ごとの研修テーマを設定し、PDRサイクルに基づいた授業研究を行う。

学部	各学部の研修テーマ（目指す姿）と窓口となる授業	
小学部	児童が人やものに関わりながら興味や思いを深め 自分から意欲的に取り組む姿を目指した授業づくり	遊びの指導 生活単元学習
中学部	生徒の思考に沿い、人やものとの関わりを工夫した授業づくり	作業学習
高等部	思いを実現しようと仲間とともに 自分から取り組む姿を目指した授業づくり	作業学習

イ 授業研究会

各学部で年間2回の授業研究会（うち1回は三学部が同日開催する公開授業研究会）を実施する。学部ごと助言者（外部講師）を招聘し、指導助言を授業改善や授業力向上

につなげる。授業者は各学部で設定をする。

令和8年度 助言者				
小学部	静岡大学教育学部附属特別支援学校	田中 美德	教諭	
中学部	清水特別支援学校	香月 文吾	教諭	
高等部	富士特別支援学校 富士東分校	杉澤 陵太	教諭	

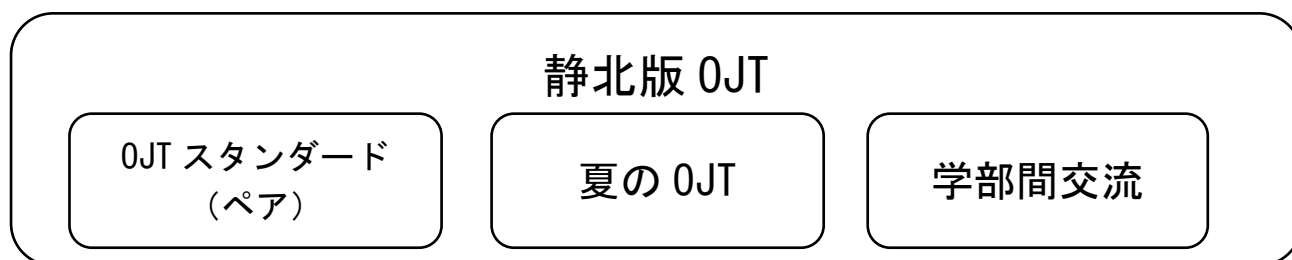
(3) 静北版OJT

OJTとはOn the Job Training の略称で職場内の実務を通して教員同士が学び合う研修と定義する。

ア 目的

- ・教師の「技」（教育技術）を伝え合うことで、専門性の共有や蓄積を図る。
- ・「教え、教えられること」により、教員一人一人の力量と、学校のチーム力の向上を目指す。

イ 静北版OJTの三つの取組（略図）



ウ 取組の目的（○）や内容

(ア) OJTスタンダード

- 授業における教育技術の他、教材・教具の開発、児童・生徒指導、保護者対応など、学校のあらゆる場面での「教師の技」を伝え合い、専門性の向上を図る。
- ・校内においてペア、グループを設定する。
- ・G研、学部会などの機会にペア、グループでの話し合いの場面を積極的に設ける。

(イ) 夏のOJT

- メンター（講師役）は関心のあるテーマ、及び得意分野についての講座を開講し、教員としての専門性を高める機会とする。また、メンティー（受講者）は、それらの講座に参加し、新たな教育技術を学んだり、自身の業務を振り返ったりできるようにする。
- ・メンター（講師役）は基本的に中堅研対象者（リーダー研）と希望者が担当し、自身の経験に基づいた講座を開講する。日程については研修課で設定する。

(ウ) 学部間交流

- キャリア教育の視点をテーマとした学部間交流を行い、児童生徒の発達の具合や発達段階に応じた指導方法を学べるようにする。

【学校教育目標】「夢中」と「笑顔」で 共生社会を生きるひと

〈研修主題〉

「夢中」になって取り組み、できた喜びに
「笑顔」輝く姿を目指して



キーワード1
「やってみたい」「こうなりた
い」という思いを持つ

キーワード2
人やものと
関わりながら学ぶ



小学部

児童が人やものと関わりながら
興味や思いを深め
自分から意欲的に取り組む姿
を目指した授業づくり

＜遊びの指導、生活単元学習＞

中学部

生徒の思考に沿い
人やものと関わりを工夫した
授業づくり

＜作業学習＞

高学部

思いを実現しようと仲間とともに
自分から取り組む姿を目指した
授業づくり

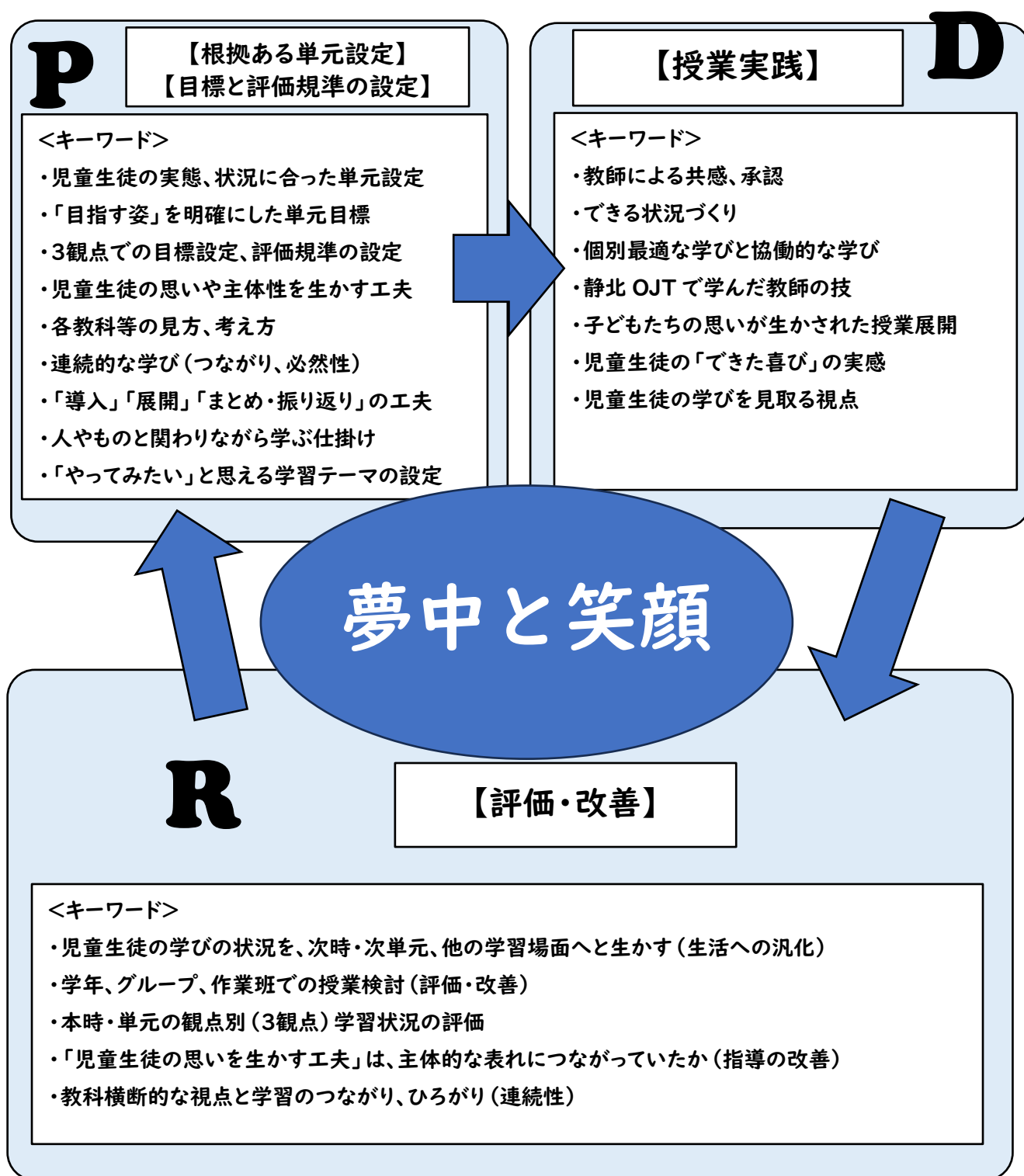
＜作業学習＞

静北版 OJT

- ・「教師の技」の伝え合いによる専門性の共有と蓄積
- ・「教え教えられること」による、教員一人一人の力量の向上

授業づくりの流れ PDR サイクル

<Prep=準備、計画 Do=実践 Review=振り返り、評価>



授業づくりの重点について

- ① 児童生徒が「やってみたい」「こうなりたい」という思いを持ち、
- ② 人やものに関わりながら学ぶ授業づくり

<キーワード1 思いを生かす>

・最終的な目的に向かって「こうなりたい」と思えるように、子どもたちの思いを想定し、仕掛けていく授業づくりを行う。

・ワクワク感をもちながら「やってみたい」と思えるような、魅力的で深みのある目的(学習のテーマ)を設定する。



<キーワード2 人やものに関わりながら学ぶ>

・人やものとの関わり合いを意図的に設定したり、関わり方を工夫したりして、子どもたちが主体的に学び、育成すべき資質能力を身につけていくことをポイントとする。

・人やものに関わること≠授業の目的にならないように注意したい。

